



2017年3月期 第3四半期決算 決算短信補足資料

2017年2月3日
日本水産株式会社

◆年間計画を上方修正

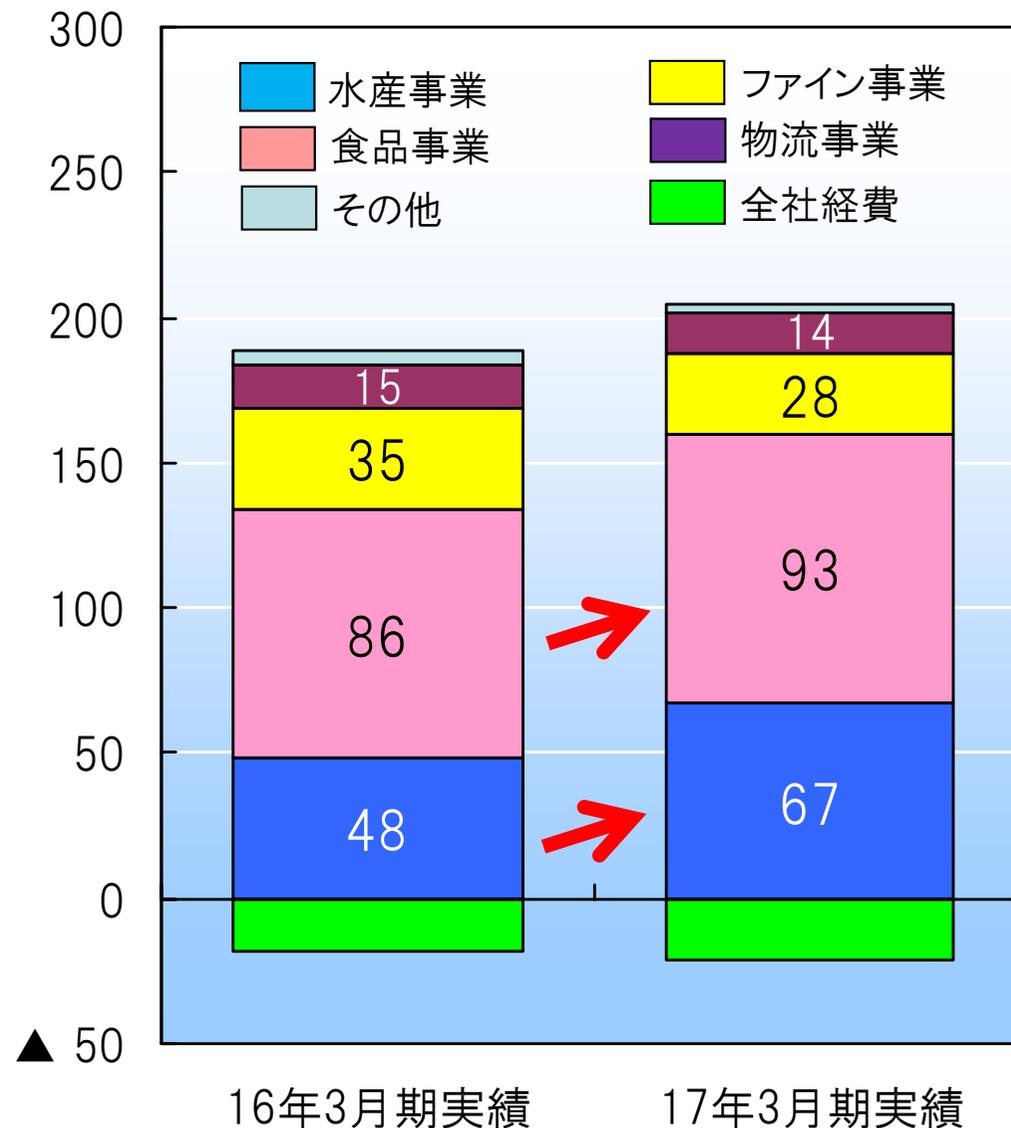
鮭鱒の市況回復に加え、円高や主力原料の価格メリットなどもあり、国内の水産・食品が好調に推移。売上高は為替の影響で減収となるも、営業利益では前年同期比で約8%の増益を確保。第4四半期もこのトレンドは続いており、年間計画を上方修正する。

(単位:億円)	2016年3月期 第3四半期	2017年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	4,867	4,688	▲178	96.3
営業利益	173	187	13	107.9

【営業利益】

(単位:億円)

‘15/12実績計 173 ‘16/12実績計 187



◆当期純利益は3期連続で過去最高益を更新の見通し

第3四半期連結累計期間においては、水産事業での鮭鱒価格の急激な回復や、食品事業での好調な販売と原材料輸入コスト等の減少により、予想を上回る増益となったことから、11月4日の年間公表値を上方修正する。年間でも前期を上回る営業利益となり、経常利益は過去最高益を更新、また当期純利益も3期連続で過去最高益を更新する見込み。

(単位:億円)	11/4修正計画	増減	前年実績 (年間)
	年間		
売上高	6,050	230	6,371
営業利益	195	20	194
経常利益	200	35	206
親会社株主に帰属する当期純利益	120	20	123

主要在外会社の 為替換算レート	2017年3月期 期初公表計画 レート	2017年3月期 11月4日 修正公表計画 レート	2017年3月期 第3四半期実績 (9月末レート)	2017年3月期 2月3日 修正公表計画 レート
米ドル(USD)	120.00円	100.00円	101.12円	116.49円
ユーロ(EUR)	132.00円	113.36円	113.36円	122.70円
デンマーククローネ	18.00円	15.21円	15.21円	16.50円

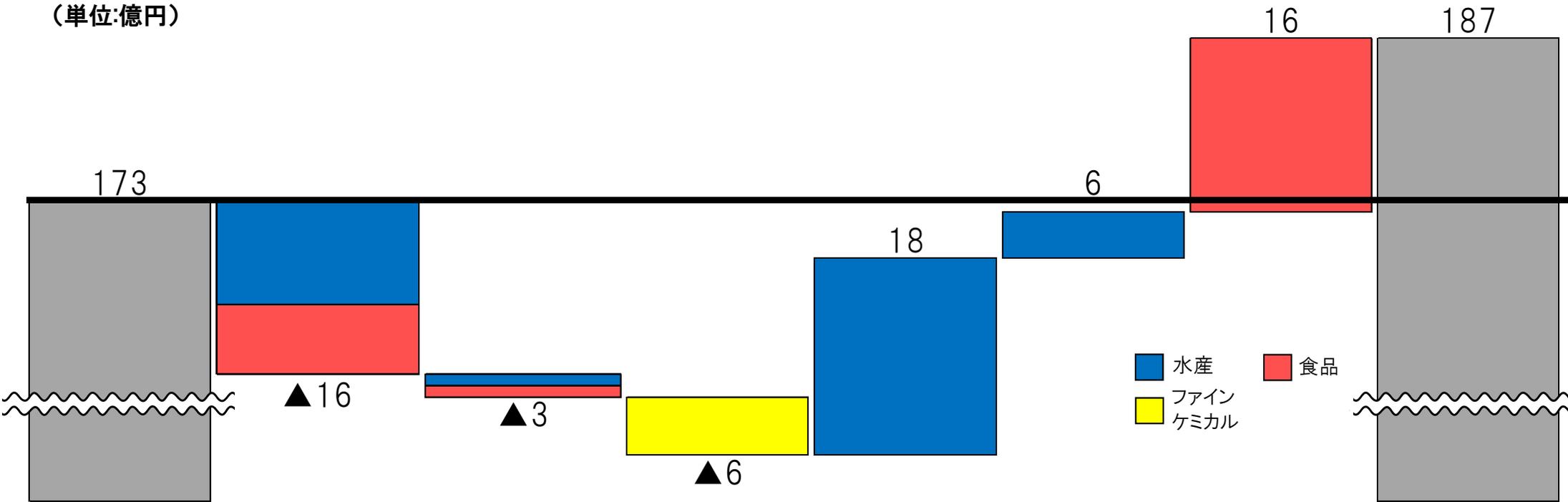
◆水産・食品事業で減収となったが、営業利益は大幅な増益となった。

(単位:億円)	2017年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2017年3月期 11/4修正計画	年間見通しに對する 進捗率(%)
			(億円)	(%)		
売上高	4,688	4,867	▲178	96.3	6,050	77.5
水産事業	1,952	2,106	▲153	92.7	2,447	79.8
食品事業	2,257	2,305	▲47	97.9	2,945	76.7
ファインケミカル事業	187	189	▲1	99.0	267	70.4
物流事業	121	116	5	104.5	158	77.2
その他	167	149	18	112.4	233	72.1
営業利益	187	173	13	107.9	195	96.0
水産事業	67	48	18	138.1	64	105.5
食品事業	93	86	7	108.4	100	94.0
ファインケミカル事業	28	35	▲6	80.8	39	72.7
物流事業	14	15	▲0	93.8	17	87.4
その他	3	5	▲1	66.2	5	71.6
全社経費	▲21	▲18	▲2	114.5	▲30	70.6
経常利益	207	188	18	109.6	200	103.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	123	112	11	110.2	120	103.1
EPS(1株当たり純利益)	42.54円	40.67円	-	-	40.54円	-

※今年度より魚卵加工に係る業務を食品事業から水産事業に移行している(前年実績:売上高2,373百万円、営業利益355百万円)。それに伴い、前年度の実績を置き換えている。

◆北米は水産・食品事業ともに苦戦したが、南米鮭鱒養殖事業は魚価回復により収支好転、国内の水産・食品事業も好調を維持し、前年同期比増益となった。

(単位:億円)



(主な増減要因)

2016年3月期 第3四半期	海外		国内	海外	国内		2017年3月期 第3四半期
	<北米>	<欧州>	<ファイン>	<南米>	<水産>	<食品>	
	水産…助子減産、フィレ市況悪化等 食品…競争激化による家庭用冷凍食品の販売苦戦	ユーロ安の影響による原材料費の増加など	医薬原料の生産数量減少と販管費の増加など	鮭鱒価格と在池魚評価の好転が赤潮被害による販売数量減をカバー	ニッスイ個別はえびを中心に利益を確保、国内漁撈事業も好調	ニッスイ個別は家庭用・業務用冷凍食品とも好調、チルド事業も順調	

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



◆北米の水産・食品事業低迷と、為替の影響もあり減収

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,653 (▲50)	331 (▲91)	123 (▲43)	48 (▲15)	307 (▲54)	2,464 (▲255)	▲511 (101)	1,952 (▲153)
	1,703	423	166	63	362	2,719	▲613	2,106
食品事業	2,520 (76)	367 (▲121)		52 (▲4)	161 (0)	3,101 (▲50)	▲844 (2)	2,257 (▲47)
	2,444	489		57	161	3,151	▲846	2,305
ファイン事業	201 (▲2)			2 (▲0)		203 (▲2)	▲15 (0)	187 (▲1)
	203			2		206	▲16	189
物流事業	221 (12)					221 (12)	▲99 (▲7)	121 (5)
	208					208	▲92	116
その他事業	204 (▲2)			1 (0)		205 (▲2)	▲37 (20)	167 (18)
	206			1		207	▲58	149
仮計	4,801 (34)	699 (▲213)	123 (▲43)	103 (▲20)	469 (▲54)	6,197 (▲297)		
	4,767	913	166	123	523	6,494		
連結調整	▲1,224 (8)	▲124 (55)	▲85 (41)	▲68 (12)	▲5 (0)		▲1,508 (118)	
	▲1,232	▲180	▲127	▲80	▲6		▲1,627	
連結計	3,577 (42)	574 (▲158)	38 (▲1)	35 (▲7)	463 (▲54)			4,688 (▲178) ※1
	3,534	732	39	43	517			4,867

(単位:億円)

通貨名	為替影響	為替除く	計
USD	▲155	▲112	▲267
EUR	▲31	31	▲0
DKK	▲58	4	▲55
他	▲8	▲2	▲10
計	▲252	▲79	▲331 ※2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※1)前年比減収▲178億円の主な内訳:

▲252億円 (※2 USD, EUR, DKKなどの円高要因等による減収)

▲79億円 (※2 為替影響を除く海外の減収)

+34億円 (日本の増収)

+118億円 (連結調整)

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



◆北米で苦戦するも、南米が好転するとともに日本が好調に推移し、全体で増益

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	46 (6)	8 (▲9)	1 (18)	3 (2)	5 (▲1)		65 (17)	1 (1)	67 (18)	3.5 (1.1)
	40	17	▲17	0	7		48	0	48	2.3
食品事業	69 (16)	6 (▲7)		5 (▲2)	12 (▲1)		93 (5)	0 (2)	93 (7)	4.2 (0.4)
	52	13		7	14		87	▲1	86	3.8
ファイン 事業	27 (▲6)			0 (0)			27 (▲6)	0 (0)	28 (▲6)	15.1 (▲3.4)
	34			0			34	0	35	18.5
物流事業	14 (▲1)						14 (▲1)	0 (0)	14 (▲0)	12.2 (▲1.4)
	15						15	▲0	15	13.6
その他 事業	3 (▲2)			▲0 (▲0)			3 (▲2)	0 (0)	3 (▲1)	2.1 (▲1.5)
	6			▲0			6	▲0	5	3.6
全社経費						▲21 (▲2)	▲21 (▲2)	0 (▲0)	▲21 (▲2)	
						▲19	▲19	0	▲18	
仮計	161 (11)	14 (▲16)	1 (18)	9 (0)	18 (▲3)	▲21 (▲2)	183 (9)			
	149	31	▲17	8	21	▲19	174			
連結調整	2 (2)	4 (4)	▲1 (▲4)	▲0 (▲0)	▲0 (0)	0 (▲0)		3 (4)		
	▲0	▲0	2	▲0	▲1	0		▲0		
連結 計	163 (14)	19 (▲11)	▲0 (14)	8 (0)	17 (▲2)	▲21 (▲2)			187 (13)	4.0 (0.4)
	149	30	▲15	7	19	▲18			173	3.6

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

連結損益計算書(前年同期比)

◆営業利益率が4%まで回復

(単位:億円)

	2017年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	2016年3月期 第3四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	4,688		4,867		▲178	▲3.7
売上総利益	1,015	21.7	1,030	21.2	▲15	▲1.5
販売費・一般管理費	828		857		▲28	
営業利益	187	4.0	173	3.6	13	7.9
営業外収益	43		44		▲1	
営業外費用	23		28		▲5	
経常利益	207	4.4	188	3.9	18	9.6
特別利益	1		16		▲14	
特別損失	8		11		▲3	
税金等調整前四半期純利益	200	4.3	193	4.0	6	3.5
法人税等	43		51		▲7	
法人税等調整額	24		19		4	
四半期純利益	131		122		9	
非支配株主に帰属する四半期純利益	7		9		▲2	
親会社株主に帰属する四半期純利益	123	2.6	112	2.3	11	10.2

販売費・管理費ほか内訳(前年同期比)

(単位:億円)

	2017年3月期 第3四半期実績	2016年3月期 第3四半期実績	増減
【販売費・一般管理費他】			
販売費	▲455	▲467	11
一般管理費	▲351	▲364	12
広告宣伝費	▲20	▲25	4
計	▲828	▲857	28
【営業外損益】			
投資有価証券売却益	4	11	▲6
持分法投資損益	24	17	7
支払利息 (受取利息控除後)	▲14	▲17	3
その他	4	4	▲0
計	20	15	4
【特別損益】			
投資有価証券売却益	0	14	▲14
災害による損失 (チリ赤潮、熊本地震)	▲2	-	▲2
その他	▲4	▲9	5
計	▲6	4	▲11

◆公募増資もあり、自己資本比率が大幅に改善

自己資本比率 '16/3 21.3% ⇒ '16/12 24.9%

主な増減要因(単位:億円)

資産	+92	流動資産	+164	現金及び預金 受取手形及び売掛金 棚卸資産	+76 +196 ▲75
		固定資産	▲71	有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産	+23 ▲16 ▲78 ※1
負債	▲92	流動負債	+273	支払手形及び買掛金 短期借入金	+79 +202
		固定負債	▲366	長期借入金 退職給付に係る負債	▲347 ▲16
		純資産	+185	資本金・資本剰余金 利益剰余金 その他有価証券評価差額金 為替換算調整勘定	+142 ※2 +107 +12 ▲89 ※3

※1. 投資有価証券の減少 ▲65億円

※2. 公募増資による資本金及び資本剰余金の増加 +139億円

(公募増資による自己資本比率への影響 +3.1%)

※3. 為替換算調整勘定の減少により、その他包括利益累計額が▲66億円減少

流動資産
2,339
(+164)

流動負債
2,396
(+273)

固定資産
2,210
(▲71)

固定負債
826
(▲366)

総資産
4,550
(+92)

純資産
1,326
(+185)

うち自己資本
1,133(+184)

◆ 営業CFは前年同期と同水準を維持、増資資金の一部で借入金を返済

(単位: 億円)

	2017年3月期 第3四半期実績	2016年3月期 第3四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	200	193	6
・減価償却費(のれん償却含む)	121	126	▲5
・運転資本	▲66	▲64	▲1
・法人税等の支払額	▲43	▲41	▲2
・その他	▲45	▲44	▲0
営業活動によるCF	166	169	▲3
・設備投資額(固定資産取得額)	▲193	▲130	▲62 ※1
・その他	40	▲40	80 ※2
投資活動によるCF	▲152	▲171	18
・短期借入金の増減額	112	▲13	126 ※3
・長期借入金の増減額	▲200	▲16	▲183 ※3
・株式の発行による収入	139	-	139 ※4
・その他	▲22	▲21	▲0
財務活動によるCF	29	▲52	81

主な増減要因

【投資活動によるCF】

- ※1. 医薬品工場の建設
- ・北米水産加工会社の付帯設備(棧橋)建設
- ・漁撈会社の運搬船の建造等
- ※2. 有価証券取得の減少等

【財務活動によるCF】

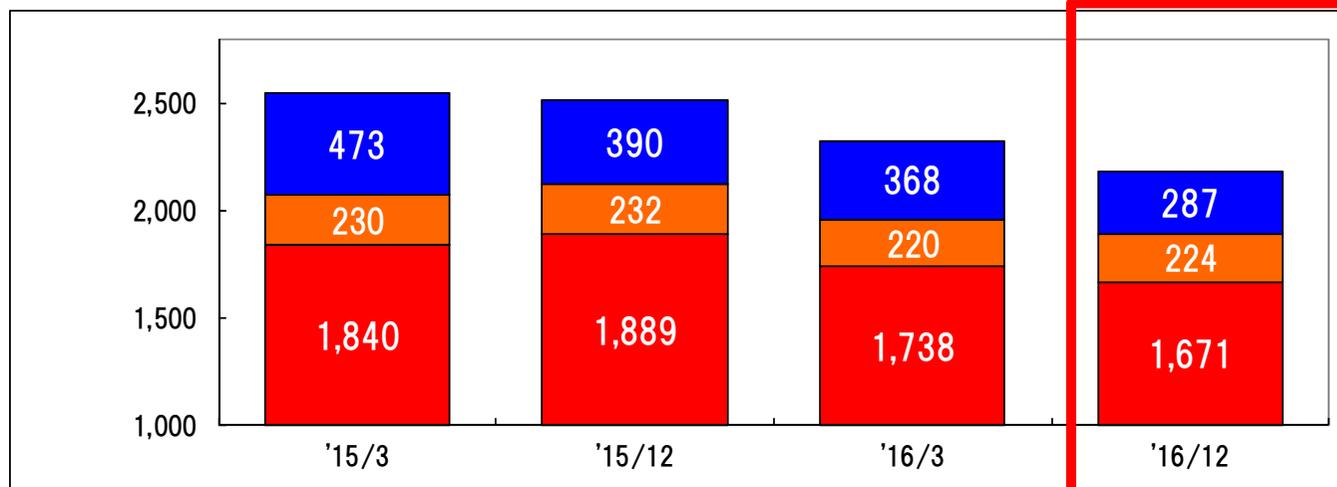
- ※3. 長期借入金返済等
- ※4. 公募増資による増加

連結借入金・純金利負担

◆前年並みの営業CFを捻出し、有利子負債を圧縮。

(単位: 億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッサイ個別



前期末
比増減

▲81
+3
▲67

借入金合計	2,543	2,510	2,326	2,181	▲144
短期借入金	1,399	1,452	1,375	1,578	+202
長期借入金	1,143	1,057	951	603	▲347
短期借入金平均利率	0.6%	0.6%	0.6%	0.5%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	▲0.1%
純金利負担	16.2	11.9	13.8	9.2	
対営業利益純金利負担率	9%	7%	7%	5%	
支払利息	30.3	20.2	26.5	16.1	
受取利息	3.9	2.4	3.3	1.7	
受取配当金	10.1	5.8	9.3	5.0	
為替レート(US\$1)	@120.55(12月末)	@119.96(9月末)	@120.61(12月末)	@101.12(9月末)	

※為替レート換算による影響額

前期末比 ▲51億円
前年同期末比 ▲55億円

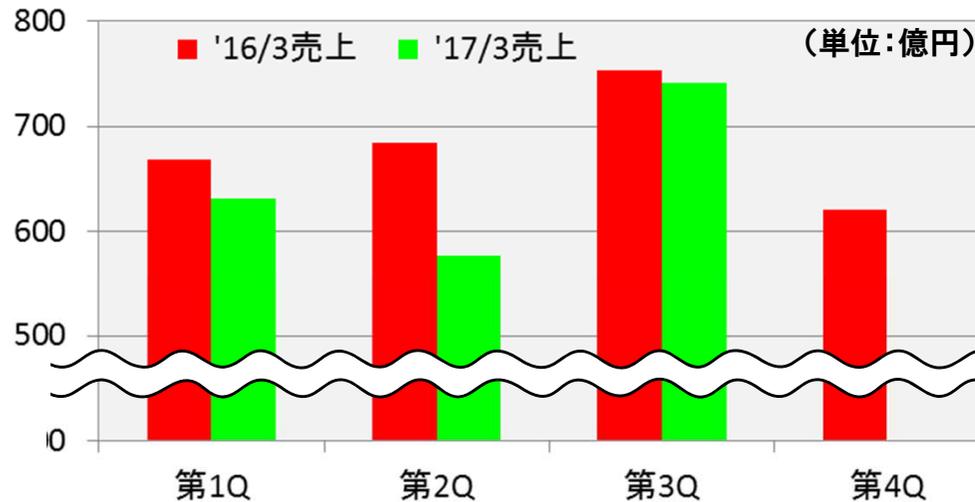
◆南米鮭鱒養殖事業で、魚価が大幅に回復したことによる収益改善もあり、大幅な増益

(単位:億円)	2017年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	1,952	2,106	▲153	92.7
営業利益	67	48	18	138.1

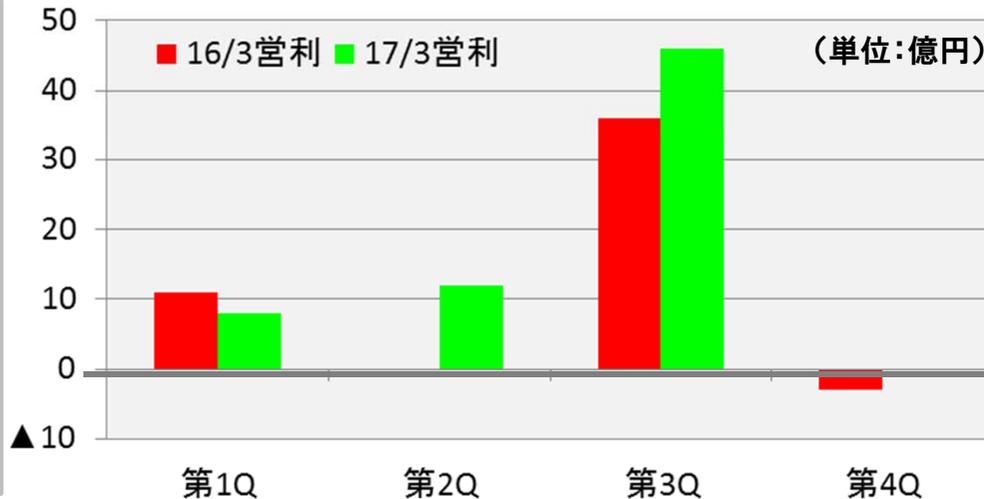
2017年3月期 11/4修正計画	年間計画に対 する進捗率(%)
2,447	79.8
64	105.5

※今年度より魚卵加工に係る業務を食品事業から水産事業に移行している(前年実績:売上高2,373百万円、営業利益355百万円)。

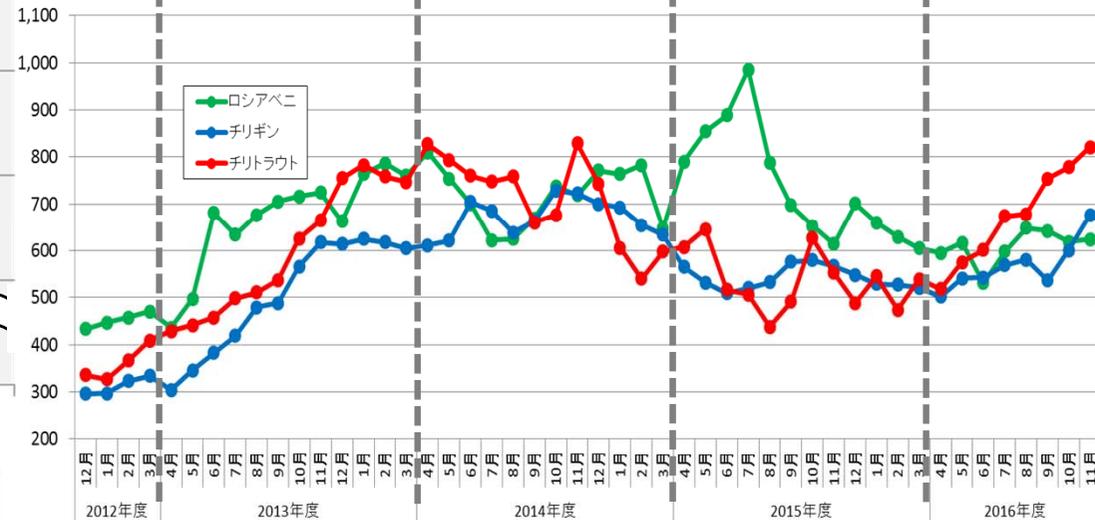
売上高



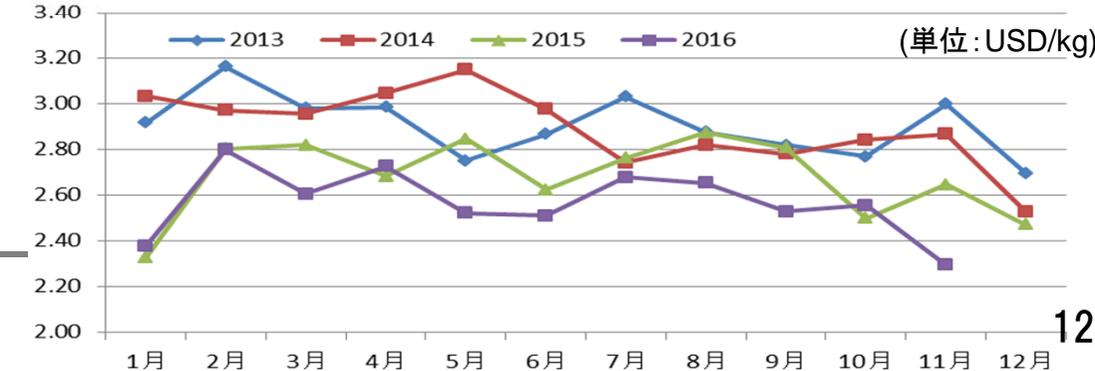
営業利益



＜国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞ (単位:円/kg)



＜すけそうだらフィレ価格動向 (NMFS(アメリカ海洋漁業局)より算出)＞



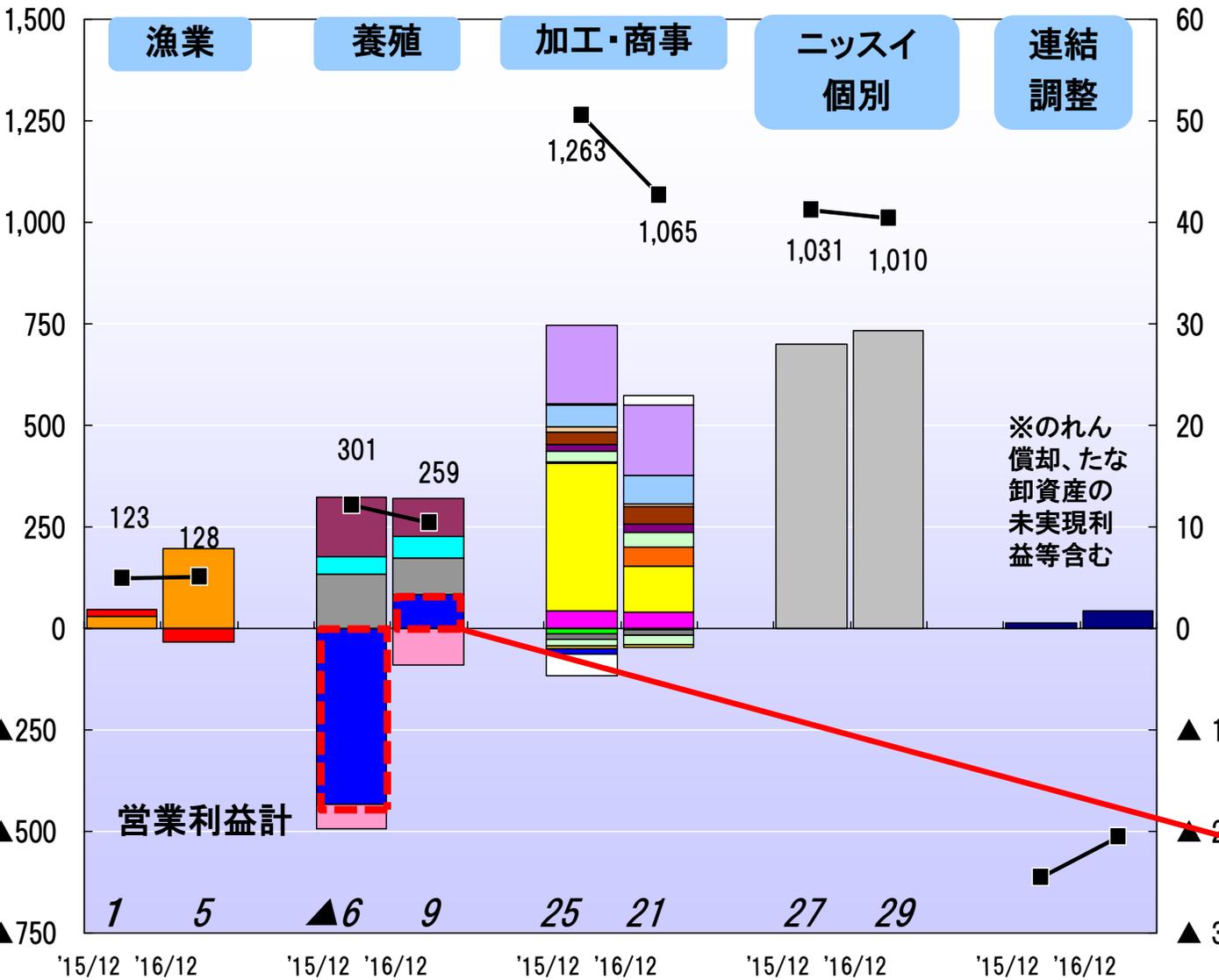
水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



売上高(折れ線グラフ)

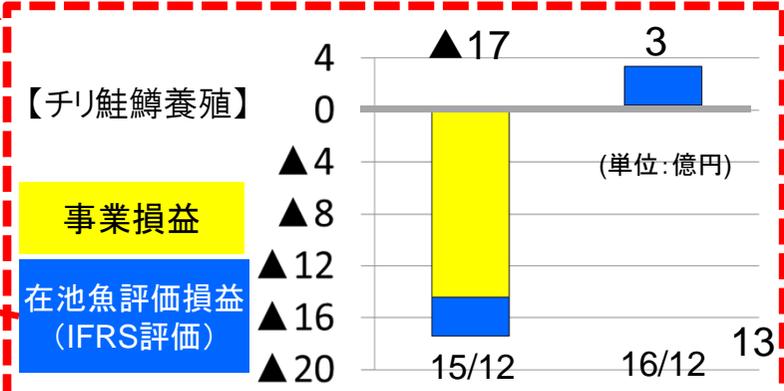
(単位:億円)

営業利益(棒グラフ)



主な増減要因

- 【漁業】(増収増益)
 - ・日本:かつおやぶりの好漁に加え、修繕費や原油安による燃料費の減少
- 【養殖】(減収増益)
 - ・チリ鮭鱒養殖事業
 - 赤潮の発生による販売数量の減少があるも、販売価格の大幅な回復に加え、在池魚評価が好転
 - ・国内養殖事業
 - まぐろ:販売単価下落
 - ぶり:販売数量減、鮭鱒:原魚コスト増
- 【加工・商事】(減収減益)
 - ・アメリカのすけそうだら事業
 - 助子の卵率低下に加え、フィレ市況が引き続き低迷。すりみの販売価格は下落。

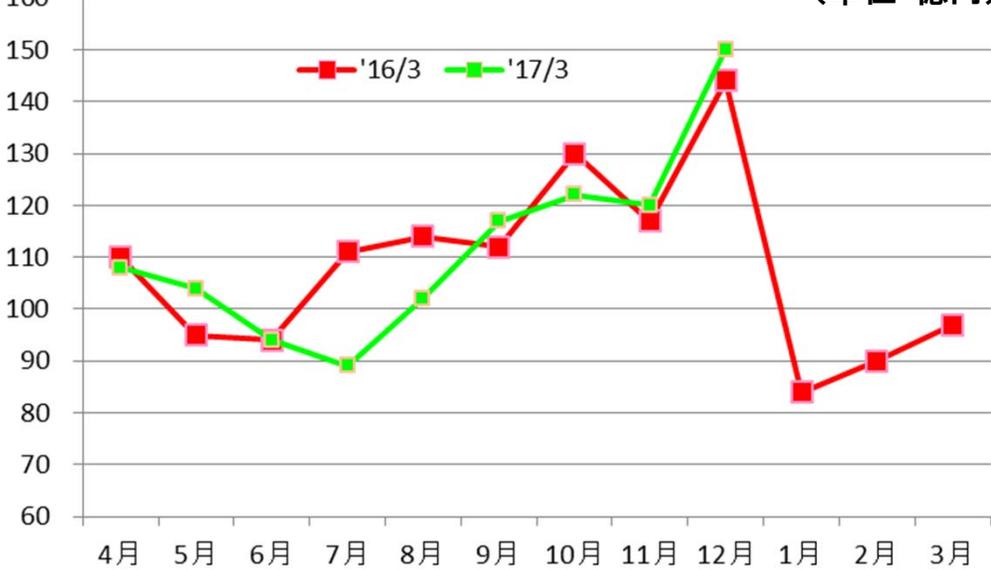


※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

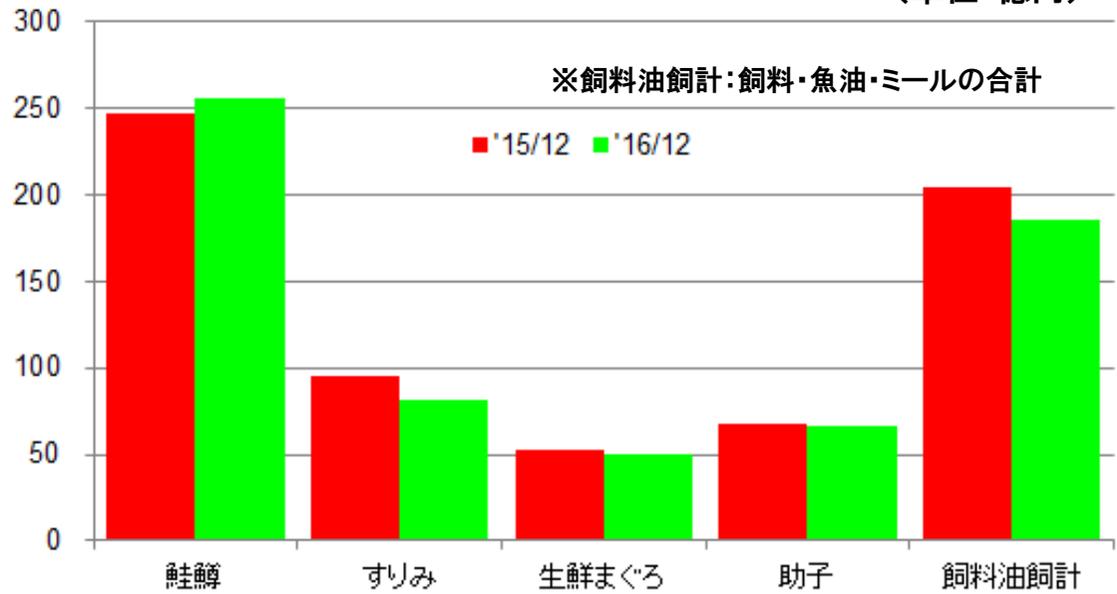
国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、水産事業セグメントの営業損益に計上しております。

◆販売数量は横ばいで推移するも、粗利率の改善などにより増益確保

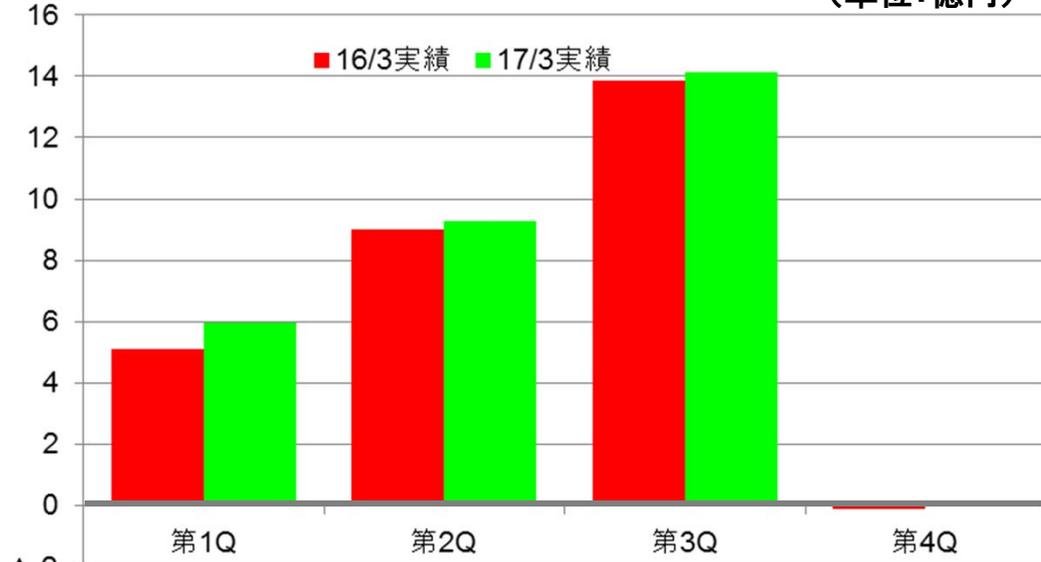
<売上高(月別)> (単位:億円)



<主要魚種別 売上高(前年同期比)> (単位:億円)



<営業利益(四半期別)> (単位:億円)



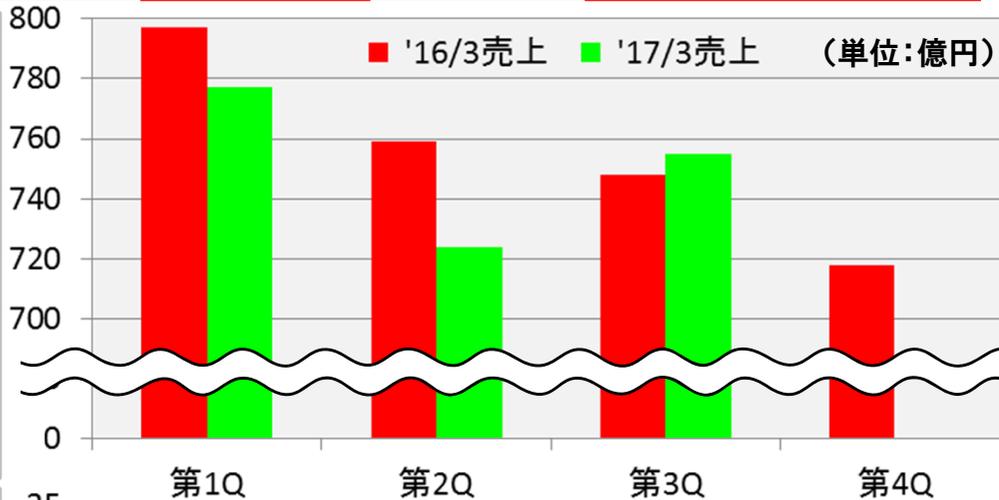
◆北米で苦戦するが、チルド事業も含め国内食品事業は順調に推移

(単位:億円)	2017年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	2,257	2,305	▲47	97.9
営業利益	93	86	7	108.4

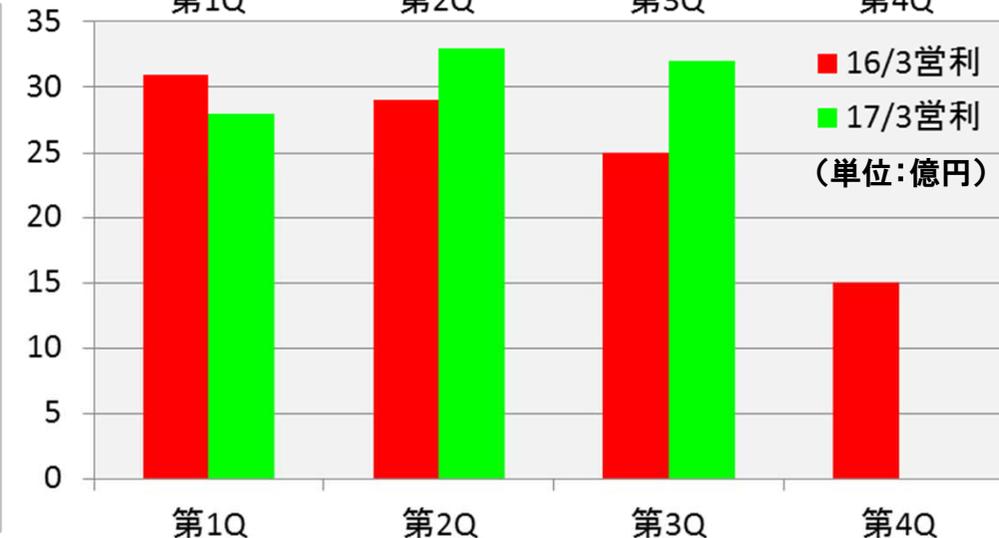
2017年3月期 11/4修正計画	年間計画に 対する進捗率(%)
2,945	76.7
100	94.0

※今年度より魚卵加工に係る業務を食品事業から水産事業に移行している(前年実績:売上高2,373百万円、営業利益355百万円)。

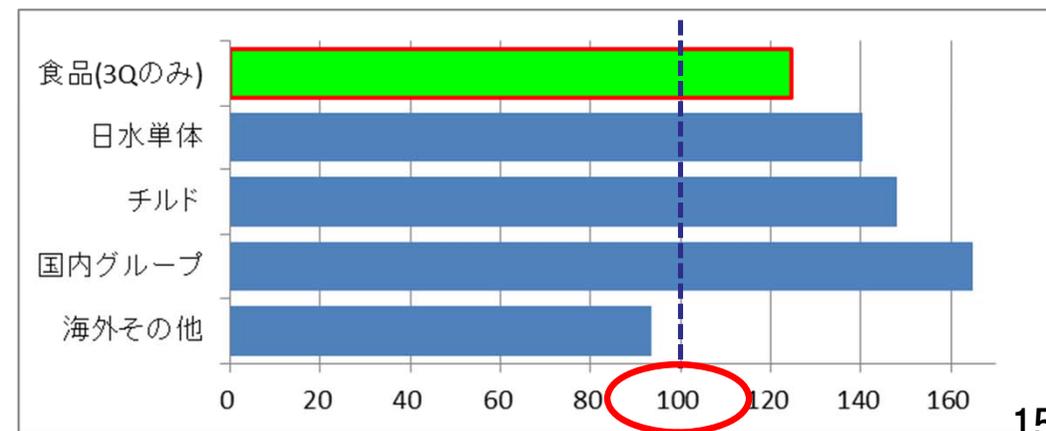
売上高



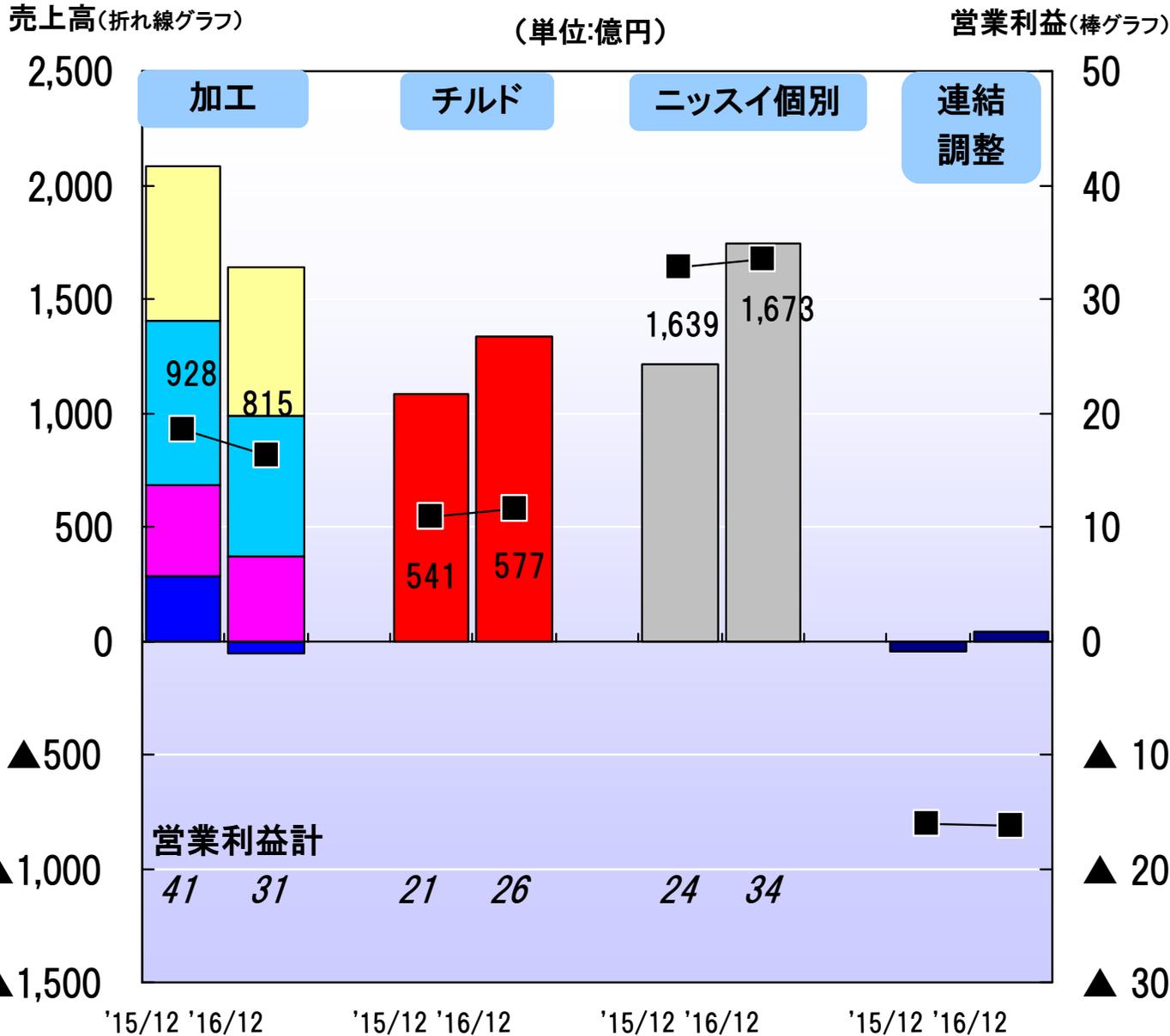
営業利益



＜食品事業 第3四半期のみの営業利益増減(前年同期比)
国内:10-12月、海外7-9月(単位:%)>



食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【加工】(減収増益)

- ・北米
家庭用冷凍食品会社: 第1四半期での主力商品の販売不振により大幅な減収減益をカバーし切れず
業務用冷凍食品会社: 原料のえびの価格が安値で推移し増益

- ・ヨーロッパ
販売数量は増加するも、為替の影響により減益

- ・日本
家庭用冷凍食品・業務用冷凍食品の販売が好調に推移したことに加え、円高の影響による輸入コストの減少などのコスト削減により引き続き増収増益をキープ

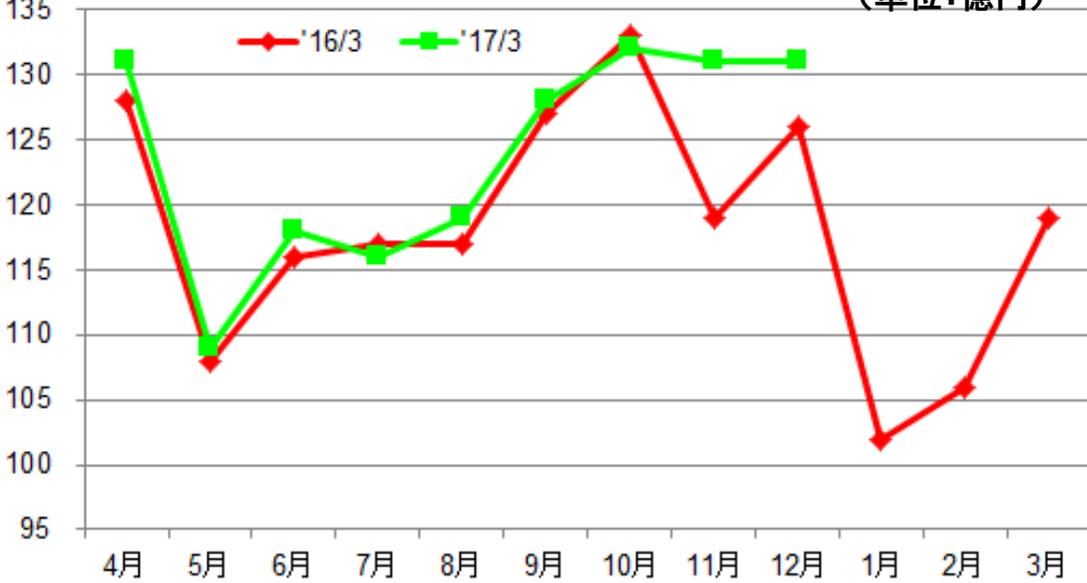
【チルド】(増収増益)

- ・コンビニエンスストア向けサラダや惣菜などの販売伸長し増収増益

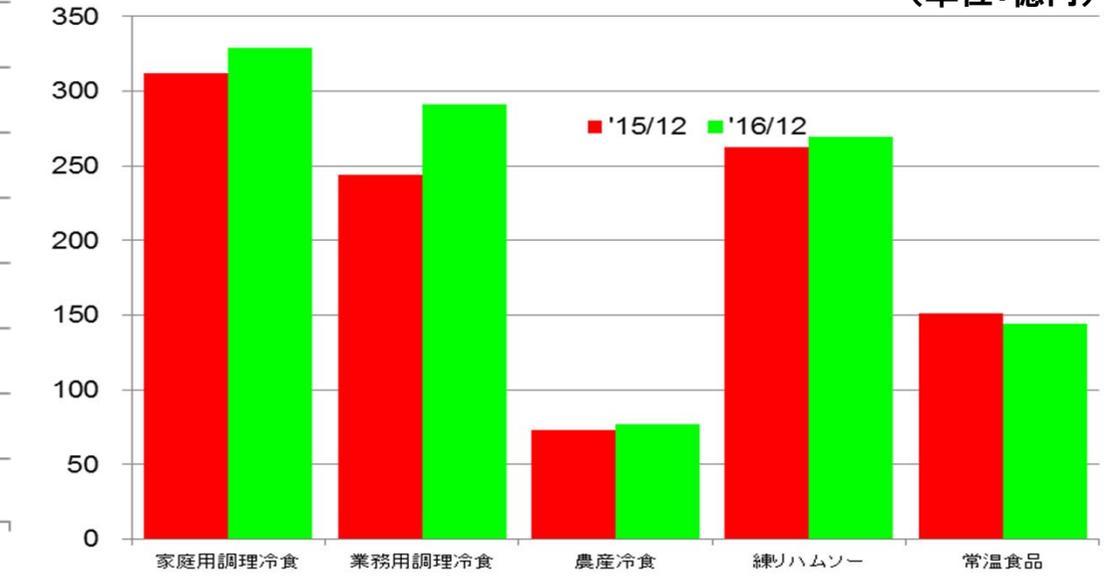
※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

◆ 冷凍食品やちくわなどの練り製品で増収、円高効果やコスト削減努力などにより増益

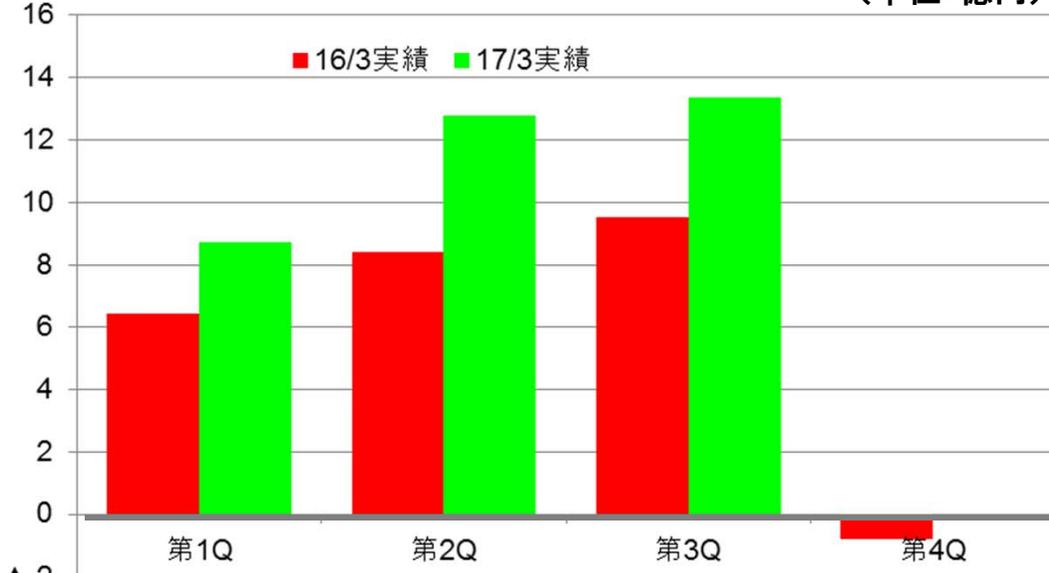
＜売上高(月別)＞



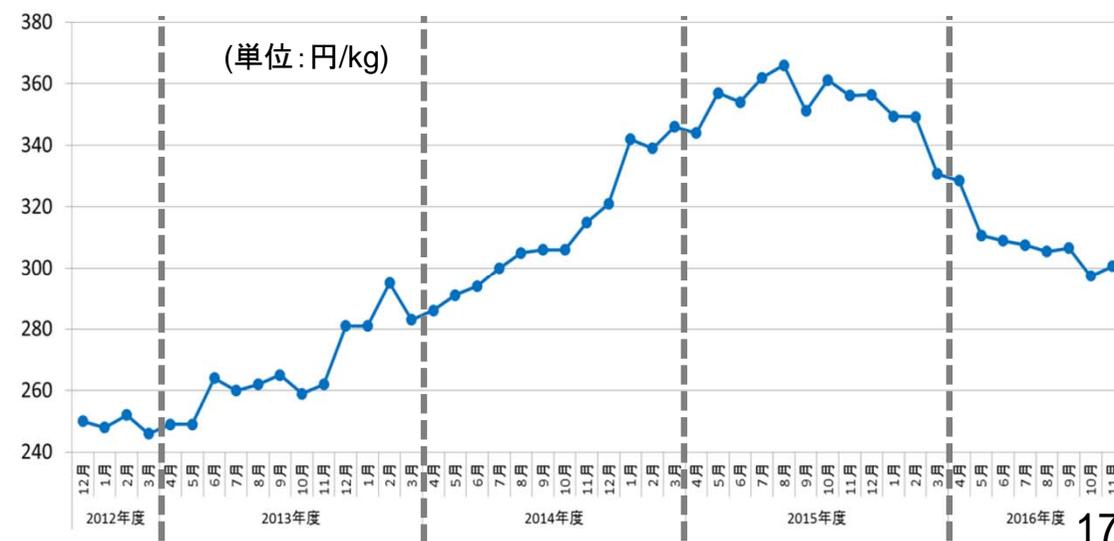
＜カテゴリ別 売上高(前年同期比)＞



＜営業利益(四半期別)＞



＜冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)＞



◆後発品使用促進策の影響が残り、売上高は若干の減少

(単位:億円)	2017年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2017年3月期 11/4修正計画	年間計画に対 する進捗率(%)
			(億円)	(%)		
売上高	187	189	▲1	99.0	267	70.4
営業利益	28	35	▲6	80.8	39	72.7

主な増減要因

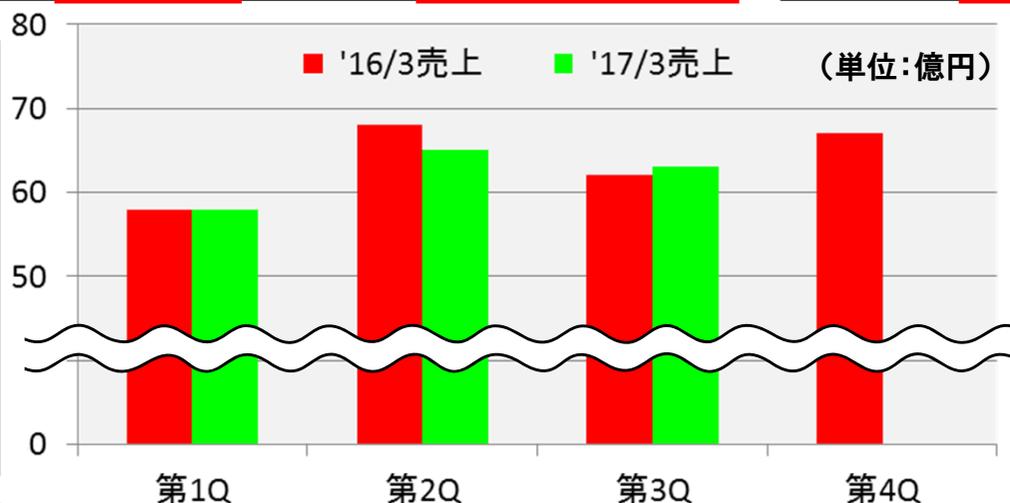
【ニッスイ個別】

- ・医薬原料:後発品使用促進策などによる販売数量の減少
- ・機能性食品:イマークSを中心とした通販での販売数量の伸びが不足

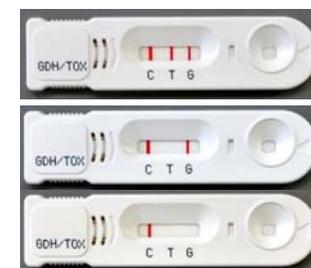
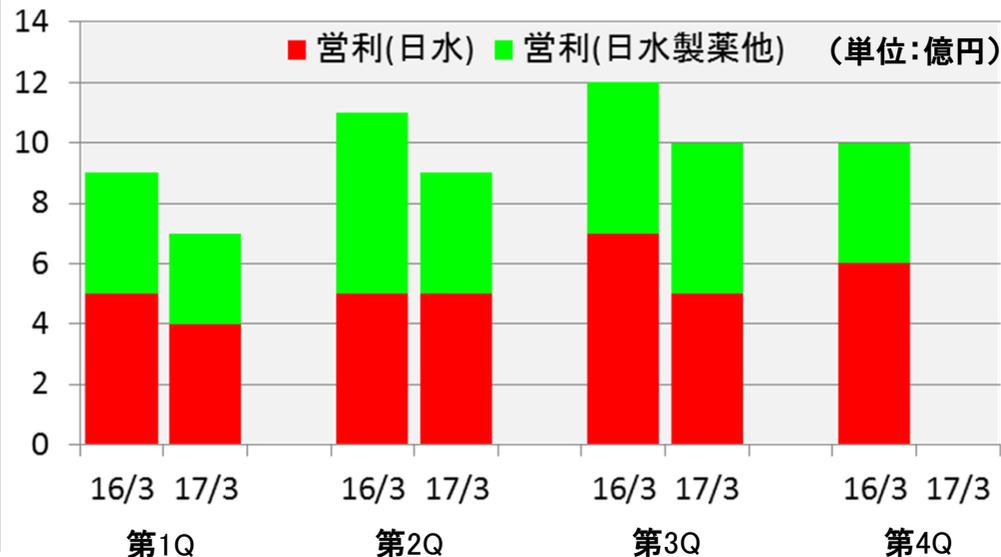
【グループ】

- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売が順調に推移するも、製造原価などのコストが増加

売上高



営業利益



臨床診断薬:細菌検査用試薬

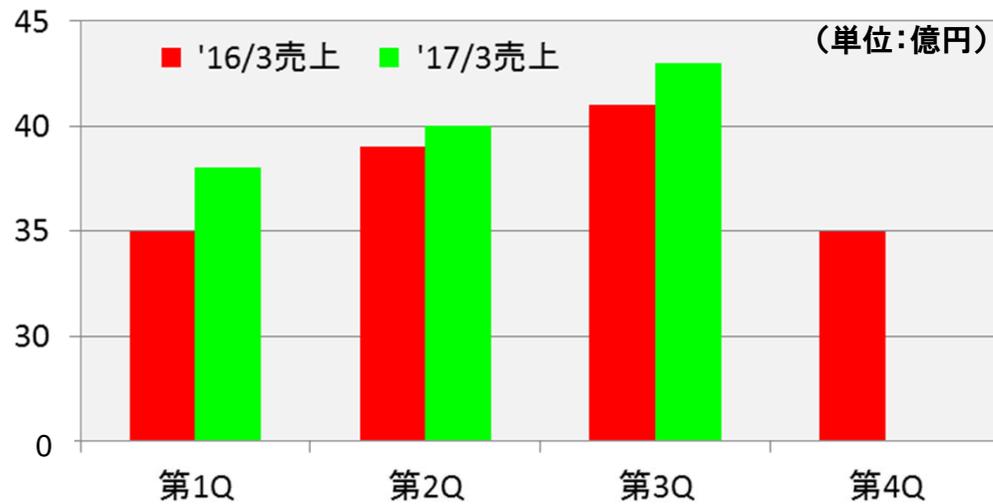
◆大阪舞洲物流センター立ち上げに伴う初期費用あるも、昨年並みの利益を確保

(単位: 億円)	2017年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	対前年同期比増減		2017年3月期 11/4修正計画	年間計画に対 する進捗率(%)
			(億円)	(%)		
売上高	121	116	5	104.5	158	77.2
営業利益	14	15	▲0	93.8	17	87.4

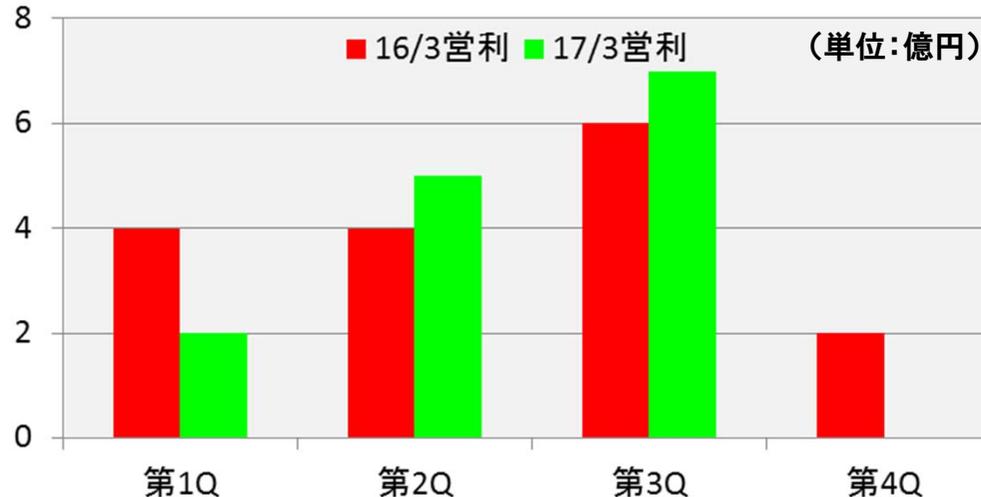
主な増減要因

- ・大阪舞洲物流センター新設による売上高増加
- ・減価償却費及び初期費用の発生

売上高



営業利益



日水物流・大阪舞洲物流センター(設備能力:約25,400トン)
2016年3月竣工、同4月より営業開始

◆水産・食品事業ともに増収増益を見込む。

(単位:億円)	2017年3月期 2/3修正計画	2017年3月期 11/4修正計画	対11/4修正計画比増減		2016年3月期 実績
			(億円)	(%)	
売上高	6,280	6,050	230	103.8	6,371
水産事業	2,607	2,447	160	106.5	2,727
食品事業	3,022	2,945	77	102.6	3,023
ファインケミカル事業	259	267	▲8	97.0	256
物流事業	159	158	1	100.6	151
その他	233	233	0	100.0	212
営業利益	215	195	20	110.3	194
水産事業	74	64	10	115.6	44
食品事業	109	100	9	109.0	101
ファインケミカル事業	38	39	▲1	97.4	46
物流事業	17	17	0	100.0	18
その他	7	5	2	140.0	6
全社経費	▲30	▲30	0	100.0	▲23
経常利益	235	200	35	117.5	206
親会社株主に帰属する当期純利益	140	120	20	116.7	123
EPS(1株当たり純利益)	47.29円	40.54円	-	-	44.55円

修正計画のポイント

水産事業

・南米鮭鱒養殖事業が引き続き好調

食品事業

・ニッスイ単体: 為替推移等のリスクはあるも、家庭用・業務用冷凍食品の好調による増収と徹底した販売費管理

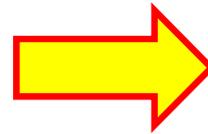
・チルド事業: サラダ・惣菜類などの増収が寄与

◆ソーセージや缶詰、スープに加え、冷凍食品で受理される

機能性表示として「**中性脂肪を下げる**」効果を訴求

■ 当社の機能性表示食品の商品展開: 30品目受理済(1/16時点)

- ①加工食品(9品:練り製品6品、スープ3品)
- ②冷凍食品(6品)
- ③常温・その他(7品)



夏までに22品目の発売を予定



ニッスイとしての今後の取り組み:
EPA(エイコサペンタエン酸)の多面的効果を活用し、
「中性脂肪」に限らず訴求効果を広げていく。

■「家族との食卓応援」



■「価値ある国産原料」



■「食卓惣菜」～おうちで贅沢～



■「食から健康」



見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2017年2月3日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

